

スターター・クラッシャー もうひとつのケッチン

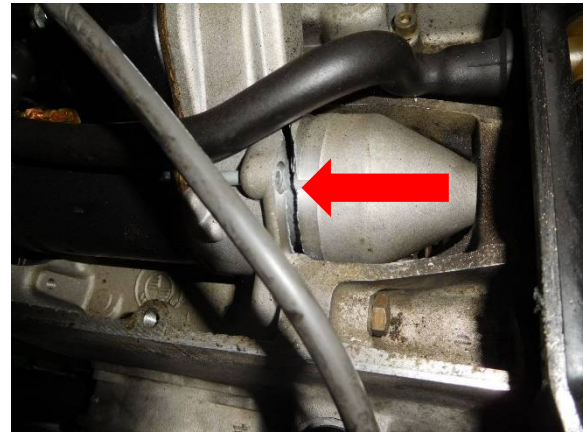
シリンダー当たり500ccのエンジンを目覚めさせるには大きなパワーが必要です。

瓦割りのように精神集中させ体重を掛けた一瞬のキック動作や大型バッテリーによる強力スターターでの速いクランキングを実現できないと容易に始動しません。キック始動ならケッチンとして現れる現象もセルフスターターの場合は時としてケース破壊のパワーで反撃されます。

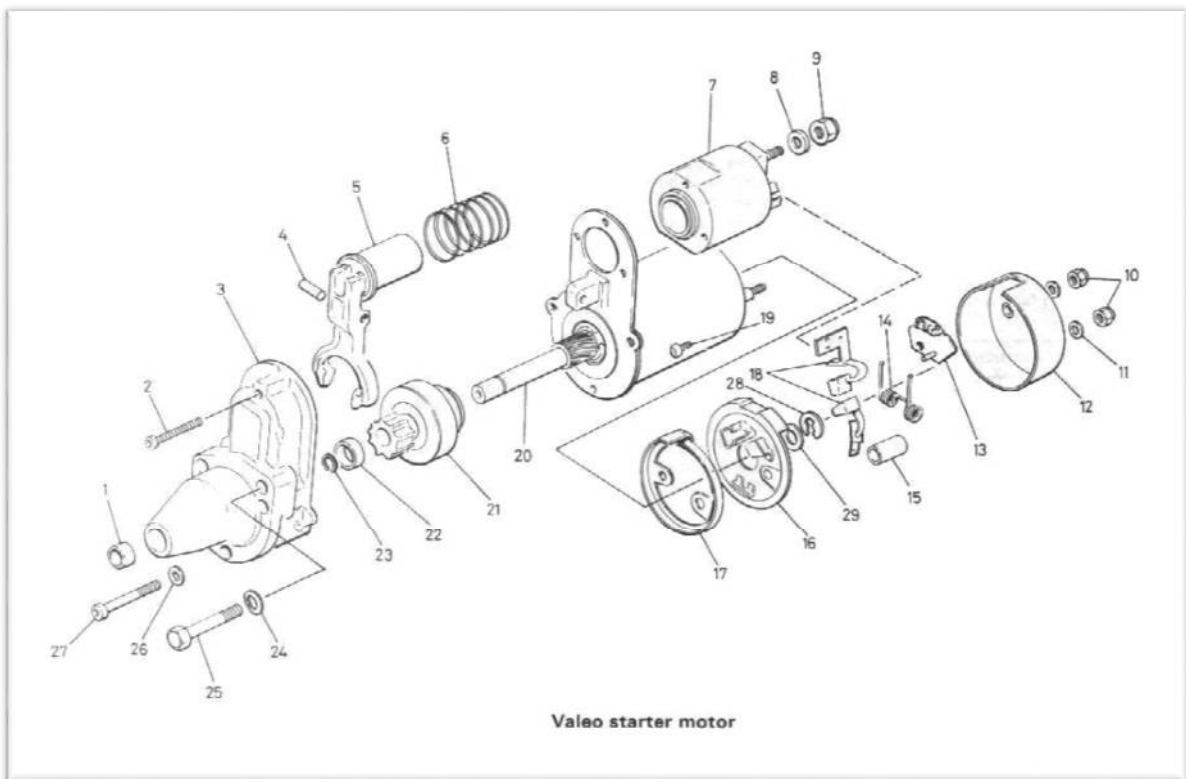
当該車両の場合、イグニション・ハーネスの接触不良で点火時期をコントロールできない状態でした。セル稼働中に進角状態でスパークすると過早着火となりピストンは上死点を越えられず、逆回転します。キックならブーツソールをハンマーで叩かれるような衝撃があるのでアルミで出来たスターターケースはその衝撃を吸収することはできません。



レイアウトの関係で後継のオイルヘッドと逆向き装着



一撃必殺パワーでチーン



CRIMECA